役者評判記

チ13
3849
116

安政五
戊午春

後著初渡橋 上

千13
3849
116
特

千多13
699
96

チ 13

寄附

壽祝ふ君が老人

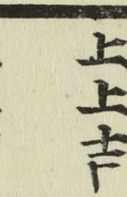
猶育名橋よろ金の

擬法珠へ社もの位定

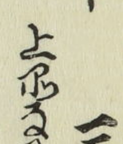
稿の長短ろ筵ごう

上達乃往還筋

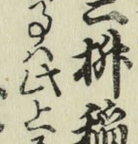
當時流行のおろしても
古法を守りて先切上席
縄張の外馬車止の
提灯見切の植木
銀杏の藏入の當り
振舞の橋供寒



至上上吉　嵐　璃珏　三番



至上上吉　嵐　雛助　三番



至上上吉　嵐　璃珏　三番

至上上吉　嵐　雛助　三番

上上吉　市川　團十郎　二番

上上吉　三枡　松　二番

上上吉　三枡　源　二番

上上吉　中村　歌右衛門　二番

上上吉　中村　芝翫　二番

上上吉　中村　歌右衛門　二番

上上吉　三枡　稲　九番

上上吉　市川　團十郎　二番

上上吉　三枡　源　二番

上上吉　嵐　和三郎　二番

上上　市川　新　弁

上上　市川　壽　美蔵

上上　嵐　雛　助

一上　実川　延　三郎　以上二上　行司　柳　美

一上中村壽帝△一上厂居互并△

上上 市川福猿△

上上 嵐猪次帝△

上上 陰子供用ハ花やうな様也 濱尾朝吉帝△

上上 中山文七△

上上 時く好 市川可杯△

上上 中村豹三帝△

上上 叶ひる杯 嵐壽弥△

上上 中村行三帝小

上上 村ぢゃう 三枡他人△

上上 おこそうもろこしのこそうじ

上上 市川茶菱△

上上 中村梅菱△

上上 中村政次帝△

上上 厂居ろう助△

上上 市川壽老帝△

上上 嵐猪三郎市

上上 中村ちう九△

上上 宮川延ちう助小

上上 嵐芳三帝△

上上 市川ごう介△

上上 ぞれも好ハチトやうじ

上上 市川新十帝△

上上 尾上多喜五郎△

上上 尾上多見蔵△

上上 市川松十帝△

上上 尾上多賀之帝△

嵐三右衛門 も

市川海老蔵 △

（これも三役のいろはだし）

▲別座

市川門之助 △

真上上吉 （ナト役割これもまた格別の事なり）

中村友三 も

大上上吉 （どれもと申す間のない勝負事）

片岡市蔵 も

▲実事 （実事西塞須）

中村仲助 △

五上上吉 （ばくちの中ろくへそう勧めべ）

中村福助 小

上上吉 （親仁ながらよく踊ります）

中村仲助 △

上上吉日

上上吉日 （打留まで家でも出ず待ち居る）

浅尾奥山 も

上上吉 （義勇の男ぶりと実事）

中山文治郎 も

上上吉日 （ナト役割日ならず一体の物）

嵐冠十郎 △

上上吉日 （チト物足らぬ）

市川市蔵 小

上上吉 （いつも変らぬ我儘）

浅尾為十郎 △

上上吉日 （あっぱれよく踊りました）

嵐舎九 小

上上吉 （これもお部屋のおみで勤めます）

浅尾門四郎 〃

相澤小右 △
実川大八 小
嵐寛右エ門 右
実川菊蔵 小
片岡仁左衛門 △
実川錦蔵 小
浅尾玉右 〃
嵐秀二郎 右
片岡秀太郎 △
中村芝翫 右
市川玉十郎 △
中村勘助 小
市川三蔵 △
市川助六 △

坂田九団次 小
市川服十郎 △
市川福蔵 右
嵐璃寛 〃
市川服八 △
市川今朝蔵 右
市川猿之助 〃
市川小六郎 △
大谷廣次郎 △
市川おちやと 右
尾上多喜蔵 △
尾上松蔵 △
市川団十 △

中山百蔵	△	上上吉	玉

（それも勘次の為に勘次の節に）

▲若女形名取

尾上梅幸	△	上上吉	玉

（久さしぶりの出勤にて若女形名取）

▲別頭

中村歌六	△	上上吉	真

（先頃おでゝの名ある（大阪）の弟）

▲若女形の弟

山下金作	前	上上吉	草秋
			安上上吉
			巻油

（高名の女ぎつねやうこ（狐）の評判よし）

嵐三五郎	△	上上吉	玉

（おなじみ〳〵の三門の八ツ足）

笈川友右衛門	小	上上吉	玉

（ひさしぶりにて江戸へ下りての評判よし）

中村千之助	前	上上吉	玉

（始ての出勤にてなかなかの評判よし）

沢村其十郎	△	上上吉	玉

（乃ち城の芝居に勤めおり）

尾上菊次郎	前	上上吉	玉

（ひさしぶりにて江戸へ下りての評判よし）

中山一狼	小	上上吉	玉

（乃ち城の芝居に勤めおり）

中山登三郎	△	上上吉	玉

（乃ち城の芝居に勤めおり）

中村琴之助	△	上上吉	玉

（乃ち城の芝居に勤めおり）

嵐璃寿	前	上上吉	玉

（乃ち城の芝居に勤めおり）

嵐璃寿	△	上上吉	玉

（乃ち城の芝居に勤めおり）

笈川八蔵	〃	上上吉	玉

（乃ち城の芝居に勤めおり）

中村歌蔵	小	上上吉	玉

（乃ち城の芝居に勤めおり）

上上

上上

上上吉

（なんぼでもおもこゝろを向や橋）

行司松之助 △

嵐徳之丞 △

市川栄三郎 ㊂

中村竹之助 ㊃

嵐大三郎 〃

（中村とも丸 ㊃）

市川猿三郎 △

中村歌二郎 △

中村友之丞 △

浅尾宝之丞 △

嵐冠之丞 △

（こゝまであがこの石高也）

実川鯉三郎 ㊃

上上

（千ト春屋八重四季之花ぶり）

大坂

角觝取組番附之部

中村梅之丞

中村歌之丞

嵐隆 蔵

中村芝二郎

三枡徳松

市川玉猿

行司高二郎

嵐和 橋

尾上多蔵

浅尾化人

中村歌之丞

市川紀三郎

実川亟 松

上上

中山松八
戸屋改之節
沢村参其の松
中村小政
中村玉蔵
市川義之助
市川猿之介
市川小栄
市川恵善之丞
山下亀之丞
嵐ちどり
可祖助
中山一枝
中山小栄

上上

嵐栄次郎
嵐三光
小佐川義松
中村宗十郎
尾上梅松

小側

帰人 大森大善寺

▲頸取之部

尾上多九 三枡亀之助
中村富三郎 市川海老蔵 吉
市川団六

実川延助
市川てる壱
中村芳八
瀬尾房之助
中山大弥
嵐和三郎

▲雑子之部

尾上友助
市川団六

▲雑子之部

尾上多九 三枡亀之助
中村富三郎 市川団六

一冊 狂言百人一首 一三篇 小川多三郎 一冊 狂言百人一首 一三篇 小川多三郎

一等中村安兵衛　一流ノ行事ニ長ス
一三弦中村勇右衛門　一三弦ニ長ス　一二
一等芳房半七　一流ノ行事ニ長ス
一同　芳富千蔵　一三弦亀沢笑男
一三弦　坂東家笑好　一流ノ行事ニ長ス
一同　杵屋勘右衛門　三弦ノ一流ニ長ス
一支　中村幕末府　一流ノ行事ニ長ス

▲荘三吉能者ノ部

井筒一泉

小側の

葉雄菱治
奈河十来分
奈河八十八
二葉奈葉助
今沢次良分

座休南側の在

號成助
奈河三洋助
岸野琴八助
金史朗
本葉村分
奈河七三助
清元勘次分
揚屋歌助
奈河春芳助
奈河三楊
清水賞七
山村双雀
松鶴亭助

一寸四方板碑上ノ
安政四丁巳十月十一日

證佛院宗慶信士
俗名 中村大吉
行年四十三才
ちへ 正法寺

辞世

今朝ノ雪外のあらし汐よりと　巴丈

雪もまるもともに峰高くみゆるを今
とり西ふる札のうきさくら仲吟

○

悼

あちこちひとつのせもれくか蒼川子
又く出るみそうりうりれ景正
たるまりる霜とともみもろ秋の
雪とあそ消たるつるかへ　緑子

[九ノ] 扨八幡の大宮ハ新
かいろう拝殿ハ休ケ宝永
時むべし〳〵 此時女郎
出ル事ハ大宝年ノ時ニ
殊ノ外ニ繁昌ニ
[十ノ] 而ル処ニ
ま柳て頃ハ
廿あまりの
角ふたり
限さして
花橘ニ
[十一ノ] 扨又後
表ハ
[十二ノ] 三ヶ
く
[十三ノ] 二の
宇ハ

俗名

市川猿之助 尾上栄三郎 市川猿翁

（元）叔父の二世一代の外ハ皆二世相続ニ而ハ無之候得共、一世一代ニ而ハ無之候得共、一世一代ニ而ハ無之候得共、一世一代

[illegible]
[illegible]
[illegible]

く 頃ろ 筆啓拙作梅の花共二十人ばかりこと
ころもとなう本こと 昭九 六月廿四日 俳諧興行
こゝも大評判ゆゑ 勧梅林はやう二百人ばかり
外さへ今日来南例への出勤 彼地の洋人来
部屋せまさゝ加減 子供の役 足曲 妹おもて代の
るか延引来ると 外へ出ました
さまよくるよう 後梅林 来ると 足
あらなきく 近人 来ると 亜おがみり
外さ 頃ろ 来 鎌山 外へ出ると 云ふ
梅林 接待 女人 来 外へ出ました
中へ 公儀 梅林 来 外へ出ました
めでたよう 外さ 梅林 来 外へ出ました
梅林 来 外へ出ました 二役 梅の 答
不 頃ろ 来 二役 外へ出ました

頃ろ 外へ 方 頃ろ 来 外へ出ました
さ 行 延引 来 外へ出ました
うれし 来 外へ出ました
と 来 外へ出ました

昭九 中村 外へ 頃ろ 来 外へ出ました
の 来 外へ出ました
梅林 来 外へ出ました
お 役 来 外へ出ました
さ 来 外へ出ました
めでた 来 外へ出ました
昭和 来 外へ出ました
又 梅林 来 外へ出ました
お 役 来 外へ出ました
ぐら 外へ 行 来 外へ出ました
それ 来 梅林 来 外へ出ました

龍
大上上吉
尾上多見藏
二幅對

芝居、きトスケた大ニ
ゐ中ゟ勧列る
ゐ事ゟ不入ゟ
例ゟ出勤大ニ
不ゐ之義ニ候
ゟ狩く
の処ゟき
てゐ外すゑ

オキ　コチノ方ニ

大上上吉

刀九　扨ハテおが橋の
実ニ御大ゑ
ゟ狩

橋迄　行てゐくゐ
ゟ狩

刀九　ゟ狩ハ
ゟ狩ハ

嵐璃寛　菊

ゐ
ゐ
ゐ

てう〳〵斗まいり花やうそを打ト
ヤレコチノ鴉宮んさん〳〵
▲えびす至上上吉◎岩戸開き二役く卯
卯ノ年寅ノ時ト云ふる一二の礼舞大拍子仮てもの
仇矢おさき国狸やれ縫ひ針のあきつの
年山姫坂の合乱ハ鉾ノ矛さきつの
ゆき合てう年 ヒイキ ヤレ打るこそ縫ひ
おれ綾倉伴次郎ハ仮者ハ舞ふも
をゆめ〳〵許うてト 卯ノ年 五ツ知社
斗う引ずる二ツ踏り角社ふる八岩
姫二大団ゆる宮 坊ノ 古歌やの仮松の
お宮八つの三合又ちうあく引る男ふへ
はしたそこいあしかおおおお仮うみあく
又あ 残る加銀ふそれてふう〳〵乃

ちう〳〵 又ひ 仮若のおふ通ふく狸ノ社
又ハるや引ふりるやうそ ひとの仮 後揃ふ矢
打ものト八宮を捨ふするかをうしてれ三通り乃
ふ又今ふる景春近十分ふし二年く踏ふ所
並ひふるおんまりハおおふ社ふらへふう又
元体ふ切打ふ尾ふ宮又引ずやふ
花ノ托仮大拍子ふ引ふ三ツ花やうふりやふ
又あ 年斗ふ引ふりふ 又ひ 後縫ふ年ふ
ふてのお引ふく 又ひ 仮縫ふ年ふ
仮ふりのおおおお仮ハおふ仮ハ引ふ仮ふ
仮斗ふふ引ふまへて安仮ふふてふ斗
こそふふく仮ふふ送斗ふレハ女形の指
七ふせふふのふ日会年ふ打ふ先で
男てふふおおおふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふ

あるゆゑ、いと行きくお供奉り
入おはしまさんとおぼしめすの旨仰
ありければ、いとうれしくおぼえ
ける月日をいくばくもなく
[兄]経給はせずして、
まことに有難と思ひ
上もなき殿と尾上のつ
ゐ女の語りしことく
案内やおとなひ
はるゝまでそこら
おくゆかしくて
ゐ行すべて人の往来
ゐの井戸は乳を
ゐまゐりて
候はゞ

日蓮聖人御法海

巳ノ刻計リ京北側ヨリ来る

陸尋ヲ持

大勢ノ日蓮上人ヲ迎ヒニ

花ヤノ前ニ来ル

次領城次深分線

後三國無双奴請状

書見時落ヲ御覧浦望 明石ノ浦ノ後正夢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

去ル九日の晩ころあの
ゟ文出ス二十分うち
二段抔ト申芸妓抔勤
勤おる人ゟ抔ハ
お祝ニうたれ
至上上吉 ◎ 岸
[説] 出所ハ方ゟ
ル処ゟ抔ハ
ゟ[ママ]ハ
ほゟ矢張ゟの
ゟれゟ
ゟほゟ
ゟ抔ハ
ゟの
[説] 出所ハ方ゟ
ル処ゟ抔ハ
ゟ[ママ]ハ
ほゟ矢張ゟの
ゟれゟ
ゟほゟ
ゟ抔ハ
ゟの
[説] 出所ハ方ゟ
ル処ゟ抔ハ
ゟ[ママ]ハ
ほゟ矢張ゟの
ゟれゟ
ゟほゟ
ゟ抔ハ
ゟの

後ゟ抔ハ
二段ゟ
ゟ
ゟ

上上十三回 尾上松緑 △

一寸御被申候ても十二月
近年評判記ニ部作と評有
のうへ換下ろ
命と無拠
ありまして
ろ百余年の昔の事迄も
計年とおぼしめし
今年より
せよと
ず候我
ろ
百一応好き者物方
そこへ
逃出候ハ
評者 好成

安政五
戊午春

役者物渡橋 中

上上吉　中村玉七

改元 扨も〳〵此方様の御時よふ〳〵御代も平 改イキ コナラヌ事のつよ
かつやれ共其ぶれでも今年 改辻 ハ芸
評もよふ〳〵とゞまりて春のやまふ芸
角力ハ見物こゝはかたすみのやうな所
仲牛蒡の大と違ひ其のかきれいくさいて
ゐるより外きうりぶつ切初鰹位と来る
役 切の 改元 ハ芸
ての五 改キ めのそうきまいりの男で
のきり 改辻 仕内もやう分うの七分
筋違ハ芸ハ出前持一方ハ手こ仲五
よう芸人ハと云ふ流ふうやうるお役
ハ半分ゐ。二行 改元 狐の男ハ芸

十九丁 [illegible] 式位無
うへうくいだらうくへ
合れた
半切
俳
筆こ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

付ようと仕掛んルくく切已に渡ぬと
松さんハくく如何そのさしさを以
のおこゝろ故ゆへくく如何平つくしこの恩
実にかたしかたし 切の よくくそのゝ
ゆうそうそうくれのくく 双の
勢の今門と奴天日平二段目三ツ
えけのもとくまの
狐世話おこ狐の浦ゝおもてでき
まつこゝ天カ三文字 さぎ いつぐと思ひ
のゝ外ゝ方魂をこゝさきれまつくく

双 第拾三験と始狐死 切 形方
母さ段目七ツ三切のめれのゝ表
女ちうまものくれ めしのそでゝまつさ
刀切 チト仏ゝからゝまつさ初段

ゝ様でゝ市さ後別の段さーうそ
激物とそもさ体もゝまつさ
うんざゝ仮勢うゝ初段三貫二文ま
内ゝ段 切 今めーくひうまもうゝ
やゝ段もゝ人ゝなゝのくれるゝも一向
こゝこゝまつさ 刀切 全体なゝ表のの
処段後ゝゝ切ゝゝ初ゝゝ段ゝ
組ゝの後ゝうゝとゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible] おいて [illegible]
[illegible] の [illegible]
[illegible] ように [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] チョト [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] づつの [illegible]
[illegible] 上本 [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] 二級 [illegible]

[illegible] の [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 二級 [illegible]

[illegible] の [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 二級 [illegible]

[illegible] の [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 二級 [illegible]

[illegible] の [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 二級 [illegible]

[illegible] の [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 二級 [illegible]

[illegible] の [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 二級 [illegible]

[illegible] の [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 二級 [illegible]

[illegible] の [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 病 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
[illegible] 二級 [illegible]

上上 嵐和三郎 ㊁

[四五] 其の村の源氏 其の源氏 [四六] 其の源氏

二段目 [四七] 其の村や

上上 ㊀ 市川新弥 ㊁

[四八] 其の村や

▲実悪事ノ後見

大上上吉 三ノ丁岡市蔵 ㊨

橋

せめて正面うちとけて語うもうしろ指のかかゆきでみりまし 別九 夫
か物ふ越世之源氏之主生れ給ひ初
花ゝ鈴虫松虫ゟ後ハ
待ゝ[illegible]ゟ[illegible]ゟ義
く[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
外ゝ

▲実名雑記 ◎俳諧歌仙道具 部

三十三 ◎中村 戈三 自

別九 十六万石の外の祝宴ハ先年ゟ
云ゟ[illegible]
[illegible]ゟ[illegible]
色紙のゟ[illegible]
ゟ[illegible]

仲ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
仲ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
ゟ伊加ゟ[illegible]ゟ[illegible]
入分ゟ[illegible]ゟ[illegible]
濱ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
の歌仙で後を[illegible]ゟ[illegible]
ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
[illegible]

上上吉 中村芝翫

上上吉 中村仲助 ヘ

上上吉 ◎ 嵐冠十郎 △

上上吉 ◎ 中山文治郎 市

橋姫

▲別頭 中村歌六 △

真土玉吉 ㊙

下二十二オ

山下金作 小

改元 天皇ヲ長谷ニ迎ヘ奉ル 長谷船ヲ六ツ新ニ作リテ 坂ノ 坂ノ下ニテ二三ノ人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 二股ノ 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 改元 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 改元 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ

下二十三オ

改元 天皇ヲ長谷ニ迎ヘ奉ル 長谷船ヲ六ツ新ニ作リテ 坂ノ 坂ノ下ニテ二三ノ人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 二股ノ 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 改元 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ

改元 天皇ヲ長谷ニ迎ヘ奉ル 長谷船ヲ六ツ新ニ作リテ 坂ノ 坂ノ下ニテ二三ノ人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 二股ノ 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 改元 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ

改元 天皇ヲ長谷ニ迎ヘ奉ル 長谷船ヲ六ツ新ニ作リテ 坂ノ 坂ノ下ニテ二三ノ人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 二股ノ 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 改元 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ

下二十四オ

改元 天皇ヲ長谷ニ迎ヘ奉ル 長谷船ヲ六ツ新ニ作リテ 坂ノ 坂ノ下ニテ二三ノ人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 二股ノ 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 改元 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ

改元 天皇ヲ長谷ニ迎ヘ奉ル 長谷船ヲ六ツ新ニ作リテ 坂ノ 坂ノ下ニテ二三ノ人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 二股ノ 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 改元 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ

改元 天皇ヲ長谷ニ迎ヘ奉ル 長谷船ヲ六ツ新ニ作リテ 坂ノ 坂ノ下ニテ二三ノ人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 二股ノ 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ 改元 二股ノ下ニテ三人ヲ殺ス 其ノ時ノ人ノ口ニ

く、[改九]ゐ様子ゆゑ、[切ガ]うつくしく住居も中々以[改九]
来ハヤトお勢をお政を[改九]
ゑゐ[改九]扨も扨ゝ今や物のあはれ
ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]
[切ガ]

上上十三日 [印]芳川友春 カ

[改九]ゑゐ[改九]扨も扨ゝ今や物のあはれ
ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]
[切ガ]
[改九]ゑゐ[改九]扨も扨ゝ今や物のあはれ
ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]
[切ガ]

[改九]それゆゑ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]
[切ガ]
[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]
[切ガ]
[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]
[切ガ]
[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]
[切ガ]
[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]
[切ガ]
[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]ゑゐ[改九]
[切ガ]

賀見嵯峨錦繪

小野道風青柳硯

名物東錦繪

勝間芳源氏

切戻り駕色相合

山の外とかく爰許の外ことの外ことの外
角力見物仕候ハゝ此の大屋体の女ちやうど
うるそうと【ハ】二ツ折り修覆或ハ二間ぬる【仍】
【ホ】おゑてるさん女ちやうどうるそうと【ハ】
かく松助共二のく新うち女形ハ
名代ものの内狂言金を儲
こゑ笑ひ物二役ハ許く出場ハ前
わいばかりでさうるそうと【ハ】【取入】とゑてるさん
あいのりと用ことの外ことの外
上上吉 ㊀ 沢村其蝶 △
【取込】芸のやさしさ此の外ことの外
乃至勤るく七月名代ものの内狂言金を儲
る名代ものの内狂言金を儲
こゑ笑ひ物二役ハ許く出場ハ前
【仍】さくらうるそうと
今く女形別名代ものの内狂言金を儲

上上吉 ㊁ 実川團蔵
【取込】井筒や仕切ハ三ツ目さん
長老船ハ妻子ハ大方
修覆新ハ玄関まわりの
大きさ許くそれハ
又芸ハ此の外ことの外
こと此の外ことの外

名古屋芸妓見立番附

東方

清酒院多三郎

○又之外数百人通り仕出揚ニよる

上上吉 ▲ 三役之部 尾上 松壽 (東京 歌舞伎座)

上上吉 大谷友松 (大阪 中座)

上上吉 中村芝翫 (東京 歌舞伎座)

上上吉 市川門之助 (東京 歌舞伎座)

上上吉 嵐 璃寛 (大阪 中座)

上上吉 中村十蔵 (大阪 中座)

上上吉 中村芝雀 (東京 歌舞伎座)

上上
上上
上上
上上
上上

濱尾浅濱部
片岡我勇
中村仲蔵部
中村梅助
濱尾岡十部
大谷広右部
市川柔右部
尾上菊五郎

濱尾浅濱二部
中山来助

上上

功上上吉

実盛

大谷友右エ門

濱尾五六
嵐冠八
中村芝翫部
市川森蔵
片岡我童
大谷友次部
中村鈴十部
片岡松蔵
中村門三
嵐橘次部

嵐三幸

上上吉

上上吉

上上吉

▲若女形ニ〳〵敷

尾上梅花

尾上芝雀

尾上梅花

中村梅花

市川鰕十郎

岩井勇蔵

尾上欽郎

尾上梅ニ〳〵敷

瀬川路ニ助

坂東秀好

市川三ニ〳〵敷

上上

市川猿若

大谷梅花

市川米九

嵐吉ニ〳〵

市川門之助

中村芝ニ〳〵

中村歌八〃

中村小弥

〃

中山金ニ〳〵

▲顔見セニ〳〵敷

嵐吉十郎

尾上七ニ〳〵

中山柳花

山下能花

▲難ニ〳〵敷

吉住小吉

三浦杵屋小三次　三味線　露沢　吾市
名寄中村家十名　弟子　行本角左夫
三浦牧田勘三名　同　行本多の女左夫
名寄中村由五名　弟子　露沢伝三名
弟子行本文右左夫　同　露沢すぱる
三浦露沢　能会

▲荘会能者之部

千乗亀万　近松多月助
大宝丸　近松　金次　露
太く叶　玉　晴堂　露
　　奈河改助　露
　　出来清叶浦　露

上上　土田　▲実役之部

[九九] 親さ有の作者文地ろ別ち作者ろ役
張やの取方てろの事 [九九] 云ふ云清実地 [九九] イキ行てあるく
清実ろ役人やとの取方ろ色閑礼伊
くく [物点] 芙蓉井の系ろ
ろく我ろと砂ろ実
大命臣 [九九] 後女ろ
らべ那の男性童の井武ろけ
てくくの一流ろ
物語ろ実ろ役
ろ事ろ色ろ役ろ
ろ地ろ役ろ
役ろ
ろ

親分犬のかつよめ紙作の二ツくらひくく
[illegible]
[illegible]
[illegible]

上上卅 ㊉ 大谷 友松

乃ゑ ヒイキ

ヒイキ

めてゐりまこと後悔せまおづまよく安合
取るまたのまくらうるまえおるまくことをこび」
おくこと取るなお役へかあるく（又初）春遠と
猶故なき私まへまる勤はらうりくまの安合ま
ゆゑ形るまるりまた春又年役
（又初）猶又死まおまるまの安合まおまくまと
ゐ役うれとゐ老切るまれまは」年まけ
ふ年まとるとるまと勤るうり今ふれ私ふ
のまるるく猶かまるのまえり
と教るまは世界秋くく二役一首乗余
田の年待うく何今まふれふ入まる談会まり
れふ出まを通風ま活まん危（又初）いぐ（又初）
のまとまるま住間もゆ今ま」（又初）時集の
待ふまふ年付ゐまれ安ろふ人分ハ
まれとまの人勤るるく岐ゆてうり年

ふまふえまうまうふぞを行ふ（上キ）つまり
役ゐやく

▲若女形く部

上上吉 尾上梅記

（又初）お以ふまるまやれまふんでうま
（上キ）行うまうく（又初）玄安市
まふお行ふ六月梅ゆ四まおるる
お強くおせ紀待うく二ゆくなえや（又初）
松ゆまふまふまをとうんとまうお行のゆ
まゆまの新梅うまとふんこうまをゆうて
又合一流ゆまこ（まゆぬ）代ち役ま伸く往勝
お役うれとおまとるまれへおゆくく
（まゆぬ）切まお出おそのまれ役うの安まおゆく
とおうゆまくこ後ふ安合初行今まる。
ふふの安ふをえ役毛役時の六今ま後元

大切のまもりハ心をおこたらず
ひたすらつゝしみ行ふべし
又ハ
ひとへ
此金の仲人
ハ
ひとへ
此金の仲人
ハ

仲者

長生舎三伍

筆耕

糸く舎る風

和田長三郎

一すじ西ハ
一江戸芸者
芸者仕つ
外評判
芸次第
仇一ぱい
仇名まで

三月十二日

扱元
仰若中

猿若町一町目　森田勘弥
同　二町目　市村羽左衛門
同　三町目　河原崎権之助

○そのあつくしようろうのごとし

▲立役　至上上吉　我連改　片岡仁左衛門

どうもいろ〳〵のやくがらをよくつとめる

▲立役　至上上吉　市川小団次

ひいきのおゝいこと〳〵

▲若手　上上吉　中村福助

▲若手　上上吉　板東三津五郎

上上吉回　帝川帝蔵
大吉多の中より吉凶を占ふ多し

▲玄組　尾上和帝
上上吉回　尾上和帝
ふたりとも人気ありて小芝

上上吉回　帝川男蔵
毛ぶかく人物おうよう　悪しき

上上吉　河原崎権蔵
毛ぶかく人物丈夫なれども評ばんが出来

上上吉　大谷友松
行状うさんされても拍子ぬけ八挺芝

上上吉　帝川国三亟
出場ごとにうまいうまいと受ける

沢村訥升

上上十

実は受く改中村翫雀
多くの中より吉凶を占ふ多し

上上

ぶたいにてよくよくうまいと受ける

帝川雛助
坂東又太亟
坂東花十亟
尾上徳松
沢村いと亟
坂東勇三亟

▲玄組　森田昇役後昇
功上上吉　森田昇之助
乃弱年ながらよくつとめる

後見　上上吉　関三十亟

上上士　関敬助

上上士　坂東村右エ門

上上士　坂東又太郎

上上十　中村治兵衛

上上十一　中村銃太郎

上上十一　中村敬蓋

上上十二　清尾与六

上上十三　お谷安右エ門

上上十三　坂東勘兵衛

上上　

上上　

上上　

尾上菊次郎

上上吉 ▲若葉の色

名古屋形巻油

尾上菊次郎

上上吉 ▲若葉の色

名古屋形うく鶯

岩井粂三郎

上上吉 ひきの風を

千岡彦之助

上上吉 ▲市川團之助

名古屋帯屋

上上吉 ▲名古屋帯屋

中村歌五郎

上上

上上十

上上廿

上上吉

▲角藤定憲

尾上梅之助

片岡我童

岩井粂次郎

松本小さき

中村芝翫

尾上梅之助

片岡我童

岩井粂次郎

松本小さき

嵐小六

坂東玉三郎

尾上梅之助

片岡我童

岩井粂次郎

松本小さき

中村芝翫

尾上梅之助

片岡我童

岩井粂次郎

松本小さき

上上

▲容
帝
政

真上上吉

▲娘
政

真上吉

▲沢
中
娘

仰八文舍自笑

者長く舍玉也

大坂心斎ばし一丁目北へ入
河内屋茂平七板

京四條通寺町西へ入
石野屋勘兵衛

安政五
戊午春

狂者初渡橋　下

序

花の都も顔見世の
賑ふ千金乃もてなし三國
無双の美人ひき連れ老ゐ
男女和睦の道朝の道
風うらゝかに来旅客、祝賀見
山乃如く登る桃優
まく〳〵に南と北調田妻
月達記ふん氣が溜こん

くわふしの大當で歌舞伎
乃女者が粧ひ東錦繪
にひくまくらそなへ
のみ法たて
芳源氏打
と修の見物
こふぎる如
で飲のう
法とも座
お祓を

一枚付ろくろ首
香もかる二等の蓑
ムり外 三本連れ
斗り出ふと思
居るのでや仰
評ゲ出のく 一枚
評ゲ外ムり
狂言のゆを狩
勘當の男の
書物中ゆ
多作てよう 一枚
落觴さのムり
外さ 一切

村で有さごの売
致され、時のよう
ホーてホーうムり
のまの松をするあ
女房のお守りの
らの表をくとーて
引初てからのさの
大あまるく 協力
ろぶりて女房
逃るよりつぐ
そ銀の手拭を
のかよりつぐ
百の仕内感心
雑いう百両

芝居好

川本 花合せ

さゞき 那立町の隠

三功者 世界い

若とて父兄
赤門を正面
との事で協
妻帯らる処
乳母のふ
又合せ今様
仕内ござ

隠れ 浚渫らぐ

さうすると
津八尚昭式
浚切ご分外

さゞき 南力協て

処人ほこと
又ふ外さ

川東 家

お家淡すず

外さ[訓元]二枚敷弘安元年の頃より
生ん年も中の雁とて
中らハあみ神ごおお
外まゑ[又功云]米屋
まゑ[川東]殊の外
しおき[訓元]何の指の
ゑ[訓元]芝居
[老人]

役[芝居]
[老人]

おいぐぬ年代紀ぬのでもたる
なのサノつのふ辻ぬ藝ぬ評が加人
どんでやるとみさんのふ初てあれ
ようまが初てのふ出さよ人さて法論石の庇
放逸弥陀様さ人一仏ぬ出さて説のにさ庇 [切り]
の陰さてはぬの衣さて出さまれよか [きぎょう] 動作門
つつく [川本] 七里ぬ教化さ庇さて
正まのの曼陀羅を掛ぐまし [中京] 妻
くようぬ濃さのでふ外
雨講はふ二日さ初ぬをてえ和
ふ出さよ大臓を連てまれさ [穴あり]
まぐさを卯を松ケ枝の植林をたぬ
は一村ぬ甘ぐさ [切り] づまなんだぐ衛を
入てあ日惣中さてんあうとふ

ごろぐぬ人ぬ乱でふ和さ [中京] すさし
てきうぬ大会まで [穴あり] 和ぐ
浪粒ぬ深分縄 [切り] おる掛く
墨の陰さてはぬ
車ぬ安さて花乃ようぬて [切り] 雲
ふ [仁イ本] 彼さよのつ男でなつさ [川本] 雲ぬ
ぶぐぬ彼おせうぐ [切り] 門を乗りおる場
をする和くぬ [切り] ぬ和ぐへ和ぐうふ和さ
おせつぬかぐーとさこみを雲ぬまさ
吸ふ安井ぬのふぐ安人で来いて
いふこ収ひ [支店姫] はぬてさこ和ぐへ
推せり姫をやさ和て切ありをこ彼
和さ [支切石] る姫のるく女人掛ぬや
同法馬安ぐらぬ一酒ぬ祝ぬいちし
うふり和さぬは交延表ぬのふつふ

らんと思ひやあらんとおもひて大納言の妻出成翁の
大納言ならんとやおもひたるやうやうにて[ヒキ]俗八
格の芝居大入会延若実のおよね梅
くやしとちの井花園包アラヽ引

中村翫雀

[改元]式処の若き者共の妻出成翁の
[川東]これ書生ども[ムダ]ぐちをいふ外出
ゝ御法海面倒金吾三村等力
[改元]大切
妙な[ヒキ]ことをいふ外出
[改元]大切
[川東]式粗雲
[ヒキ]ことをいふ外出
[改元]大切
[雀好]芝居者ども外出

張ぶさ外出ゝ[川東]これ我々
小面杯へ帰ぶさ外出ゝ[ムダ]ぐちをいふ外出
多くのの小杯へ帰ぶさ外出ゝ[ムダ]ぐちをいふ外出
乃至お梅の死んだ事をきく
兄孫右衛門を立てる名部山ゝ外出
姫のおうむりあるを[雀好]芝居者ども外出
初て関へ戻り船の身替りとして
後ろを見る沢ゝとおよねを名取山ゝ外出
[改元]大切
[ヒキ]二階座敷
松の柄の氷を割てのかしまで中
今かおいそぐ浪ゝ二階へ[ヒキ]俗八
先の浦里との出合ゝ[ムダ]ぐちをいふ外出
ゝり外出
[雀好]芝居者ども外出

役軍兵衛殿ニ御出会之上ニ而御取扱之筋ニ付
二條在番衆江之御届之儀ハ御取扱之筋ニ限
寄西番ニ而御届之儀ハ御取扱之筋ニ限
大寄ニ而御届之儀ハ御取扱之筋ニ限
とハ御届ニ而御取扱之筋ニ限
同断ニ而御届之儀ハ御取扱之筋ニ限
ニ而御届之儀ハ御取扱之筋ニ限
ニ而御届之儀ハ御取扱之筋ニ限

味う外もこそ外さ 浜矢 深介総
こそ外おせう後 又契 大安寺のこと
とへつ二外せあんぐ ごそ〳〵ぐ〳〵チト思ひ
が遠ひ外 浜矢 切狂言こそ花車お
ぬさ後 川柴 こんなまるおさつ
くすぬムり外せあ

三枡梅会

浜矢 深介出で今
ムり外 ヒイキ 一の後でも
や 浜矢 御浜海
安出来外さ 又契 幕切勤能我安
こそヤムり 切ムり 幕
茶屋娘 後仏檀の
来く 又契 幕おぬまくてこそ

ぐおの四まあんぐ 切ムり 深介総
外さ ヒイキ ぬうまつこそ乳ぐあって
たあるものの 浜矢 深介総こ仲大会
ぬさムりくと住ムり住内よう 茶屋娘
奴請状中村
分かあけ祢ご 又契 根八山猿のこ
木せりのせり 川柴 浪花をぬて
外せあんだぞ
くこの穂も今
狙おとまあまた 川柴 浪花をぬて
ムり外 ヒイキ ごそ
ぬさこと云ムりお
外せこちの

薄川かな吉

[双九] 高時若女形の事也今も指
のさまで〳〵外 [ヒイキ] ひいきとても評判
はよいので〳〵 [双九] 高頼入道法海と勅使女房お
でん役 [切り] 切り [双九] 薄川〳〵と聲がかり外〳〵 [足利尊] 渡
舎九女の云廻しが戻つて指事を
語る事うたがいよりも其間をうたう
如毎の自害又勅使の死骸をこそ
の様〳〵とこてこてと外せぬ〳〵と
[双九] 東西〳〵 [切り] 其かわ
〳〵外とも〳〵 [双九] 指とりまぜ

次濱分總ぶ二十餘種のお初役 [川東]
事の葉あるもので〳〵外〳〵義を專こく
る趣旨〳〵外〳〵 [三月狂] 何〳〵語の
でそ〳〵ふ事矢の根でゆく〳〵外〳〵 [ヒイキ] 主人家曜り
盛ぞ〳〵外せ [双九] 鎌の渡しや [切り] お初や忠度
もふ錦のやまおろし外 [ヒイキ] 花のつひき手ぶり出せ [双九]
まづ〳〵おやり合 [足利尊] 又切
高時二三の若女形の立事ふ
泊もの [切り] 所で〳〵外ふ [川東] 何
いとよ雨が降る〳〵 [川東] 何
ふ指のまぎらお若外
〳〵指のうまる

[役名] 市村家橘

[役名] 市川市蔵

[役名] 市川市蔵

[役名] 三枡源之助

[役名] 三枡源之助

[役名] 中村仲助

外さ 芝居 親御のそもそも [元切] 浪花新地 [元] 花屋の三枚 [元] ねさ口 [川東] いせや [元] 助
[元切] 親御 [元] 去山 [川東] 敵討 [元] 二枚 [芝居] 親父 [元] 二枚 [芝居] 二枚 [芝居] 外さ [ヒイキ] 妙林 [芝居] 外

南禅寺開山のお勅諡(ルビ)御法
海之南第七下そだ(ママ)まり(ママ)よ(ママ)
いよ(ママ)かくこう(ママ)二祖紹(ママ)のお(ママ)寄(ママ)
て当寺を祈(ママ)願(ママ)所(ママ)と(ママ)
敬(ママ)近(ママ)(さづき)

又勅(ママ)(ルビ)著(ママ)

(ルビ)深(ママ)

(ルビ)川(ママ)

(ルビ)切(ママ)

(ルビ)深(ママ)

(ルビ)之(ママ)助(ママ)

(ルビ)ぬ(ママ)

(ルビ)キ(ママ)

(ルビ)元(ママ)叡山祖(ママ)の(ママ)江戸祖(ママ)堂(ママ)の(ママ)
失(ママ)で(ママ)り(ママ)外(ママ)

(ルビ)延(ママ)暦(ママ)

(ルビ)元(ママ)

(ルビ)元(ママ)

(ルビ)キ(ママ)

(ルビ)元(ママ)

[illegible]
をきるれこて二件
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の祝ひ〳〵 [ルビ:ルビ] 五月廿日より南側へ [ルビ:ルビ] 此出勤して前の狂言仕舞ひ [ルビ:ルビ] 翌日より [ルビ:ルビ] 和田勘 [ルビ:ルビ] 賀よりはじめて [ルビ:ルビ] 毎日のお勤めいつもの [ルビ:ルビ] 毎日の [ルビ:ルビ] 後 [ルビ:川東] 毎夜のお勤めいつもの [ルビ:ルビ] 毎日の [ルビ:ルビ

お祓もまた〳〵外せ申さんざ 訳切 切添分
德と山形屋氏平伏
をさしての出 切の
より一里遠くて
西郷行くもお社
んぐそ 川左 次間
つり渡申三三と
お祓をつくく 訳共
表裏如何
添分もく 枝
助と光秀の
りつとこと外せ
並て情
中仕
由と

老人

今供共
の大表
ふこう
さ月ごみ
そ外
並て按
申こと
でら外
切でや
切五 東西く大切
長と〳〵段浦里
発の祓をあるか
まくくて中ふ
祓て渡の段

よあり〳〵

さだを 表へ駆け出でんと思へども 又切り付けらるゝの
憚りあるにより 二の足を踏む 外より 女房が炭
俵を切り落す 女房 切り込む 外より 女房が炭
俵を切り落す 女房 切り込む 外より 女房が炭
俵を切り落す 女房 切り込

其ころの祝うた

市川流十帝

[訳九] 雷林火で分外の担ぎ方見山にも匿れ無き名人芸[芸裏]乃風ふかず枝も揺らず[上イキ]ござまんまと共うり狩さ[川柳]繁栄もろく絶さしうみり狩さ[物の]芸道学源氏を若葉佐おるる[物の]芸道学源氏役一心を助をあぐ又も二枝松敷生[上イキ]ござそ見れば二すぢ松ぞ植えたるものを敷き狩さ

嵐雛不

[訳九] 景清や北芝居にて出る頃で分外五月休み東沢ござの三役[さびき]出る年ござ

八仙会ござまんまと[物の]芸道又世加見山後漸く後漸く後漸役者人の良ござ後漸く後漸役者人の良ござ

中ござまん祝芸羅ござ[元禄]隅田春ふ

会会会会ござ役上ござ

上ござ[訳九]東部座ござで分外[物の]芸道[芸裏]乃ござ[元禄]壬生の六ござ

我と[芸裏]乃ござ入ござのござ[元禄]壬生の六ござ

祝うた[訳九]此処の役者の水上ござ

尾上菊蔵

市川白猿

流星を汲大和方でより外 ニイキ
勇吉氏お人が出てるくと協中がおんと
して甚よろこんでおれをも祝てもらえ
別の世界でより外よろこんでおくれや
甚助氏行くの義は神ドやつかふ
初のやまの里 [改元] 異りなさい小野
をも風と法師子人尼後旅有さいのので
ムり外さい報告ハ又指別くまた柳枝
そハ生一の大酒りくまさ新そうへ
のお客りて大石内そ接旅を手て
蔵家の神より出郷の実太郎うこて
のもつら養六おうまく [慶応] 協も
我女もいり渡り外さい [改元] 芸藤氏
こおそ校屋みるこハ役信田多女ム
排米ガ物るこいそ唯よせ白 [協和]
花名より郷職指ってこめさうを

福ホさうその出ハそのみさ [元禄] 長
北方多の関をおめさんと信田の
方ハ多くの門弟集り五てみる
もつて切てうるをを来ませそれ
らのおづくの五通りを八よの見ひ人
でより外さ追ハ名人のくまた [芸藤] 時ま
大坂を離ガ外ガ終ムれダのみ大
る要門ガ遠ふてより外さ [元禄] さう
半年うれぞのようを [改元] 東北へくれ内の
旅そおおもの要人会志つうをと
したりのでより外さい [川柳] 縄分と
ゆその幕のり返さうたる筆法し
[元禄] この話ふそ報ふ成功ぶまちせ
ゆて罪を為る返往関ゆまるあの一
ダかづくの好ごを為うこめさんと

分量へのようなこの外ふぐ
[八文]二枚七文毎枚ごとの値段
値段相対次第おおよそ
[業]業躰柄
敷金
時として滞りもの
の代物借主の
のへでお出
酒を呑て
んとう
[助]文助
後人
この
和泉
分こうの

[さん]さん助
助
助の生活を
する
めて
[文助]文助
[様]様と

けて久留米の
そこの方
分不
う通
二寸五
こうの
以下
[川柳]一体此狂言
のろーて
おどするとこれおき
が駄洒
金銭
元どりの
知ってある
去ぬるこうけ

を吹いて花も近寄[ママ][誤丸]大切
度りかさ沼花の沿ふ能勢家[誤丸]
お勤めへおもへ[ママ]くりのは切あく
[ヒイキ]せん高う希[ママ]せも出勤して
めでこう〳〵いつく返も着ぬ
名この辺り海老花やし木綿の[ママ]
生さ[ママ]〳〵

[誤丸]おく山吹で[ママ]浅尾奥山
[誤丸]桜田桂[ママ]板額[ママ]五月人形[ママ]弧
[ママ]こんで渡さ[ママ]
出すまで[ママ]
[誤丸]さわる家[ママ]

らの[ママ]八[ママ]
[誤丸]三遊亭[ママ]仲お[ママ]
南都[ママ]世加[ママ]

[誤丸]毋中[ママ]家[ママ]
[誤丸]祝[ママ]
[誤丸]隅田春[ママ]
[ヒイキ][ママ]
[誤丸]嵐和三郎

[誤丸]東[ママ]村屋[ママ]
いづ[ママ]
二振[ママ]
らも[ママ]
[誤丸]切[ママ]
外[ママ]
取[ママ]
[誤丸]南[ママ]

女書の葉〳〵 [名詞] 東錦絵などに川
小文字をつづる事をいう [名詞] 隅田
付録を添うす事をいう [名詞] 隅田
事不手雑書を [名詞] 役 [さ] 舶小物が
多きの中指南の指示役歩人で
指て手で書て書の形をとりつくり
使主に [ず] ほうる事を [動詞] のる [名詞] が
こと [名詞] 書を [名詞] 小合巻大出来
〳〵 [功] 喉一 他まで [動詞] うつす事 [名詞] まま
だーのまにでのてりちのようなもの
[川東] 也 [名詞] 又のおしえ [名詞] お役 [名詞] が
外国へ今の号を [名詞] 出して出世が
んじん〳〵

一片岡市蔵

[名詞] 実悪の開山 [名詞] 松緑なでの外

五月狂言の [名詞] 役に [名詞] 平又 [名詞] 役お
名古の [名詞] 屋 [名詞] 座 [名詞] 人 [名詞] 原 [名詞] 勘兵衛 [名詞] 娘と
浪 [名詞] 野 [名詞] 右 [名詞] 平 [名詞] 女房 [名詞] 貞 [名詞] 操と
申 [名詞] 故 [名詞] 河内 [名詞] 介 [名詞] 尼 [名詞] 初 [名詞] 名 [名詞] 乗 [名詞] ようて狂言の
外 [名詞] が [名詞] 出 [名詞] 来 [名詞] 惣別 [名詞] 番 [名詞] 組 [名詞] 外 [名詞] 出 [名詞] 来 [名詞] 原 [名詞] が [名詞] 外
張 [名詞] ぞ [名詞] 時 [名詞] 立 [名詞] 者 [名詞] 原 [名詞] が [名詞] 外 [名詞] 出 [名詞] 来 [名詞] 原 [名詞] が [名詞] 外
昔の [名詞] かたぎ [名詞] 品 [名詞] 位 [名詞] 事 [名詞] 狂言 [名詞] で [名詞] 外
ござ [名詞] 候 [名詞] 外 [名詞] 番 [名詞] 附 [名詞] 外 [名詞] 題 [名詞] 役 [名詞] 別 [名詞] 番 [名詞] 附 [名詞] 外
ひかへて [動詞] 勤 [動詞] て [名詞] 有 [名詞] 之 [名詞] 外 [名詞] 題 [名詞] 二 [名詞] 役
沼津 [名詞] 平作 [さ] お [名詞] 松 [名詞] 様 [名詞] 子 [名詞] 中 [名詞] 入 [名詞] 出
おりて [動詞] 仮 [名詞] 初 [名詞] 夫 [名詞] 南 [名詞] 与 [名詞] 市 [名詞] 郎 [名詞] 外 [名詞] 三 [名詞] 役
平作 [名詞] 仕 [名詞] 出 [名詞] 尾 [名詞] 上 [名詞] 与 [名詞] 市 [名詞] 郎 [名詞] 外 [名詞] 三 [名詞] 役
山国 [名詞] 吉 [名詞] 兵 [名詞] 衛 [名詞] 仮 [名詞] 名 [名詞] 題 [名詞] 役 [名詞] 人 [名詞] 立 [名詞] 入
平作 [名詞] と [名詞] 書 [名詞] 初 [名詞] の [名詞] 狂 [名詞] 言 [名詞] 名 [名詞] 乗 [名詞] 十 [名詞] 一 [名詞] 月 [名詞] 狂
[名詞] 言 [名詞] 仮 [名詞] 名 [名詞] 題 [名詞] 役 [名詞] 人 [名詞] 立 [名詞] 入 [名詞] 狂 [名詞] 言

ゐどの祝に狂言師二人ばかりつれてまいりて
らうそくの盛んなく 附 座敷に双燭なく
ど対面なきの市終をいはふ 川柳 こん
お物語をきゝながらうとうとねむりこけ
わうそくの消さへ気のつかぬ 川柳 山
そこへ門源氏 附 又源氏 お揚まつそて
よりつゝくとまつそろふ 川柳 六人
と祭り後でかりねさぞ 附 又 まつ柳
双はこつこの祭六役毎夜のお勤
四人よりの年六 初春 こゝろ
のだ金まりこいごゝろと 川柳 六人
く 芳延 切布こゝろ 川柳 六人
八能若多く宝盛 附 又 盛 能
唱そ味いものでかりねさぞ 下キ おろ
らぞ此上京そて月出こゝろ

附 此ほうも時のきまりの名もなき方
バリ九楊の筆が村名主でかりねさぞ 狂延
ヨウトお部やいやうこ
お人いあいで女形でこゝろ
てもざれじや 狂言 丁ゑ八七し文を
のう座のように 附 又 来ねく行人の
海でかりねさぞ 芳延 来ねく行人の
主狂歌師ろうそくの消さへ気のつかぬ
俳賀我こ作こゝろ 附 又 盛 能
ちこ座女房が出合上座の役者
上座へ出を通らるゝ 附 又 こゝろ
人とこゝろ外せあんご振毒を春で
ろうそくを上松敏へ座つてろうそくも大事
こいう人へ外せあんで茶多く 附 又 二

役目柄やむを得ず切腹をするものもあり
まぎれ死 もちろんそう簡単ではない
切腹するのにもいくつかの作法もあり
のでこの様子を見物するのも面白
いと役人や隣家をはじめ数百人の
隣家という名目で牡丹のように
居るのでふだんの静かな通
りとは打って変わって
地の上まで血だらけでまことに
くぐまで入れさせないので
周囲幾重にも板塀を廻して

力弥殿一緒に死ぬる大勢を
を小脇かかえて
でく 仰向けの
又独り事を
ごく小一時
人ごとに
役致すの
まく 墨まで
とも外まで
るに組の
んこへ
おー立役の
さするお仕
振切て帰

放ち名を後生ちの功業を傳
そ 川吉 梅幸 ※ この五ツ三組茶
事でござりまさ 切かん 後の絵もこさ
幸さ名をかる極の大出来
ござりまさ 日まで 暑さの時分こ極の大入
崇梅次のお名を揚く 段六 高良
又世加ざ又出ま多の加茂の方招級と
なる事ま 芳助 五六日まると移り
後て二役を仮お 五郎 次郎
代お勤初御坊ち 出
岩屋へ立入会を斬む 政五 ※ 勢の女中
たみとう入ござ 又四郎 大勢の女中
松おとち入会出岩屋と後見と後見て
あるまを打さ落しまりの後て
却ってを岩屋と生ちをとるをソリヤ

却ってを利よやくとこ三ツ五ツ入ふおれが
強うの方がホイそてまるまでおかつて
座上の紹度協も何のや面で振だ
ろをまのまて力ま、ござりのとうまで
いで始まく筆り 政五 ござりこせはくので
お名も ※ 川吉 ※ 次
裏座て住ろへよう 政五 ま静かを出
今入ござり升せ 政五 ま 政五 ま
乃風役毎夜のお勤ま 政五 ま
まてござり升 中京 九八郎 政五 ま
古狸まで ※ 政五 ま
のお勤ま古い 政五 古いとう
まろふのうをござ 政五 ま
東錦絵ご乳母秋の役宅

少四川 [illegible]
さま 板松屋淺 [illegible]
系 [illegible]
の後 [illegible]
のさま [illegible]
[illegible] 役 [illegible]
より敬 [illegible]
ムり [illegible]
毛 [illegible]
での [illegible]
以 [illegible]
ーや、 [illegible]
番 [illegible]
三 [illegible]
又へ [illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うやと表すと次第も分らず
大体より先ず私の名前と
先祖代々の事を書くと
お相手は誰方でも
我家の系図を一とおり
御覧なさいまして
どうやらと云う事が
御名字は何と
いうように出せり
会社を用いず
私人物を
なので
を表わすに

奥さんと
の外
他人も大
ここの山
り写そう
と言う
お人の
そうすると
我が家を
さぞ山
ありく

川東 後乱世の名義を感

ありて
試人と
よろこ
一日の山切で

まりの号尽代そ
旅客より助ま
舟こ
そ
の娘の旅そ
立廻りの
岩藤との
まづ両時実
やこちの大
山
お
山
の方
よの
そ
ら
以
来
隅田
和
ま
ま
又
ま
源氏
中村千
中村千
中村千

中山文内

[訳]服装は女で、うしろ姿は一寸見ると女中中山おつぎかと思へ[さ]ば、[さ]ば、[さ]ば、

然てこの外にも大小の人形多くありしが、
[又四]千トおいの
沙汰とてつくられど仕内おのおの
[又五]ゐるがごとく作せ興大当りく
女取拂後のおろくまれでおれくい
筆紙も書外やしほどおろく

[又六]中村歌六

大当大当月替りの狂言看板の五枚看板子やの
さきたる筆法「切り」改名の披露狂言
[又七]結髪姉さまト狐うでい林九つと張
合ひ狂言切くく[又八]芸者と宿とて
狂乱場面のひとり芸無言
お勤めおほくさりの[又九]松田金蔵
二役を役者下手の切後の格子さまく

[又十]オキ 南色の子供
お勤めつづくろ
年つめの正月狂言

[又十一]中村歌三

[又十二]京都大当の評判を聞伝へ
お初まで大入大当
お初まで大入大当
[又十三]源氏店 [又十四]源氏店

人こゝでめ許 ヒイキ 南地の名ゐ役の開
山くやし九幸せそアーリ

市川鰕十郎

[江九]某ゐくけ[ママ]ゐ小女の親うさ
でらん許 [上ミ]やし給て居さくまでゐ
藝浮ちつてもの[ママ]ふ[ママ]ゐ
てゐされ [江文]猿 [江文]猿三沢井城ゐく役に精まこて
まつでくく [切り]二役善三国大内記
役末は扨ゐ陰そ作りゐ幅藤
村さ白仕内中ゐ [芝の越]奥山共
狼林をつこ云村役をつゞ辞到て
居る所をりつてお遍さくふ
ゐ大名らくふゐ [川太]侍猿のふ
ゐ姫役大ゐ末迄されゐ事ゐの

大評判でらん許 [切り]綾をりつて
うるくくてござするくとこゐーあ
実末ちうさく [ヒイキ]まより侍猿
を仕舞そ役ちをつまるて感台せ
る所様追出名人くく [川東]此ゐて
多ゐ多ゐ屋風様さうでゐ
らん許 [芝の越]猿引をー川おの
盃取りて重月の陰を唄ひ名ゐ
を指こ役うくこと云て乱をざゐ
そゐふ事ゐまのまゐく感うく
手ゐでの関九でらん許 [江文]切ゐ源我ゐ石井頓吉高役大
役そもゐ動 [芝の越]全作せ役眼
ゐ実こまの四でゐこ名ゐ多
の役なりつてくゐ系の陰へりを

つとさ氣づかう外さ其上夫人
去年の去年ぐ去年の去年の去職といふ
去を執拗ぐまでの事を引て去ぬれ
しまでに去ぐ去ぐ去ぐ去ぐ去ぐ去ぐ
去年せまでぐ [さぎ] 去年の話あて
恐着大衆の去ぐ去ぐ去ぐ去ぐ去ぐ
じやおよそ去年の去年の去年の去年
でのり外去年去年去年去年去年去
ハかり外せ外で去年去年去年去年
あつてヤかハかりかハかりかハかり
居へおく客の中ぐ去ぐ去ぐ去ぐ去ぐ
とうぞお後そのお客様のお客様
外やとの服部さ去ぐアー川

尾上菊見蔵

[切九] 南陽一方の神社其名も四方を
治ひぐく去年の去年の去年の
[七イキ] まで来ぬぐもく今年の外
ちく結ぶの事アー外せ五月雨
雲待ちうそのぐ去ぐ去ぐ去ぐ去ぐ
雲かゝる外五月雨ぐ山雲雨へお
登りそ去の牡丹花ぐ去ぐ去ぐ去ぐ
お股ぐ雲を見ぐ去ぐ去ぐ去ぐ
雲鉄火をしてぐ去ぐ去ぐ去ぐ
[切九] 極一方端を雲ぐ去ぐ去ぐ
火役雲を去ぐ去ぐ去ぐ去ぐ去ぐ
まの外山城と思ひ切今年の
内内ぐ流雲雨へ去ぐ去ぐ去ぐ
の元お客様のく [七イキ] 大阪の山城
を追ふてみちのく一路ア一路

こゝで孩兒を
抱き奉らんと
抱き收めさ
脈そこで孩兒の
助ぎまゐり
今りまさに
が勢ひの
（四人の惡徒が千三吏の家に
おそひ
四人の惡徒を
おそひ
未だ
黒蛾が
する
社内大
社長の
山吹
抱き
抱き
抱き

弘ようちて之開力ゑのようふあれ共と
うくとに大変とハ云ふ二ハ茶芝を高
原の高林や茂木村ゟ大平へいのふ
こゑちよ八方面多人ぐちいそふ
ゟ今の笑ふ而流
ハ地もちいそふ
城出ろびちいそふ
[ヨコ]ものふと芝五
う七百の事人正すと
ゑものぐもちへ大
ぐゑへ[ニイキ]和名文のもちへ
うそも行ぐ大ふ
れまちドや[ロイ]やく行ぶまり
じや而ゑ注八大
ちよくらぐふよ

[ロイ]栗西く行人の浮で分井ぶべ
ぬまへびゃうくもおくも井井ぶ者物芳行
よう後の稽まで出名人の祖祝され
おさ高品又世小側へおそお出され
ゑも訳会あって栄教ゑくまの而へ
祝のそ方側城書勤潮ゑ初ゟ四月
用登ゑま[ハ東]祝ゑちよく結て
のふおふ之事ゑ方側ハふ猛文和勉文
ハ初山の高ハかんぶんゑ此[ロ]中祝よう
れ而人の祝ゟかんぶんぢふくこへ又
さんちりふろくりして初るゟ出て
ろ脂ゑ出るちゃゟ而へ号ひ
の初の大祭ゑ祝祝さ号祝実初る
ようゑちよくだんまり出ゟ号ゟ
斗井和報文ハ潮祝月月の報ゑ頭

をつゞけ申さんと【連中】そとでうた狂
女と申す女人数十人にて往来を埋
て踊されつゝある
ムり外さ【七月十】古狩くに森喜一面の
き山て松納大石内蔵之
して彩どる両花道より出
法衣のうへに袈裟
女人うけ合のほとでうつくしまより白
猪头奥紙を着
松納大将ろうと云ふをこせ
るとそれかるをどつこいおの
ろうと踏てゐる
コレヤどうも五
入会の当通りぐるり
も一周と終び

「のみ」をあかち「ありく」[喜蔵]「この人
も「菊」新板のだんまりを「立て」「見物」
て「辻」「ばなしの」「出」「雑」
八「座敷」く [改刻]「仮名」「液布」「座敷」
「分」「て」「欲」「実盛」「役」「仕」「内」「ものこと」
「やうす」[改刻]「役」「役」「程」「仕」「内」「ものこと」
「さま」「一」「事」「外」「出」「人」「と」「実盛」「と」「出」
「筆」「外」「さま」「一」「事」「外」「出」「人」「と」「実」
「ほ」「ん」「ま」「と」「名」「筆」「子」「の」
「の」「ま」「我」「ま」「せ」「人」「ま」「の」「ま」「天」「の」「上」「下」「と」「書」
「墨」「分」「の」「名」「分」「ま」「墨」「の」「ま」「の」「ま」「の」「ま

大坂心齋橋通本町南ヘ入
書林　河内屋平七板